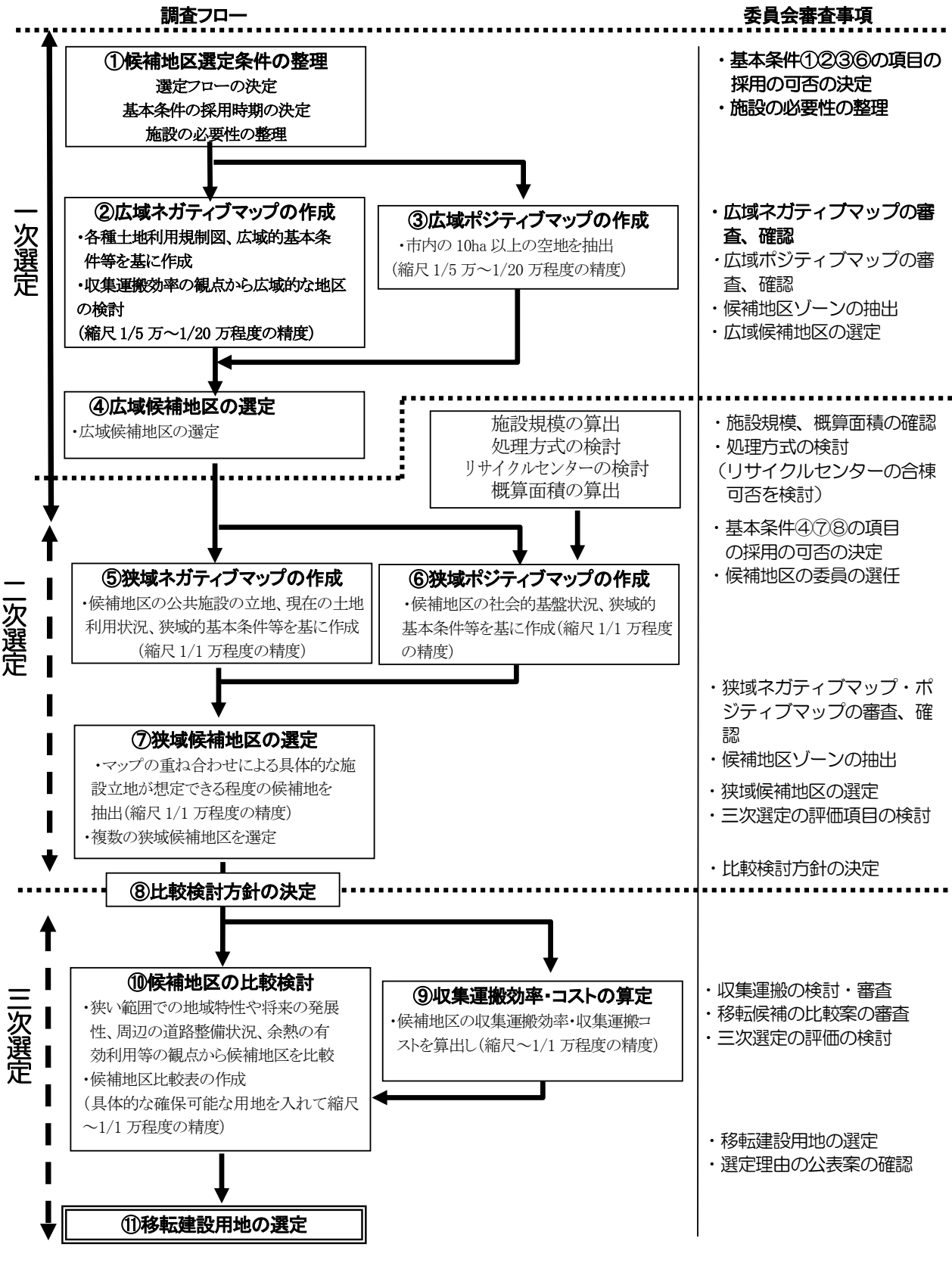


移転建設用地の選定（三次選定）の進め方【案】

(1) 選定フロー

一次選定、二次選定を経て、検討結果を反映した選定フローを次に示します。



### 第三次選定における比較評価項目(案)

1) 候補地の選定における基本条件		比較評価項目			評価の重み付け	備考
		評価の指標	評価の考え方	評価の基準		
①	300m以内に学校、幼稚園、保育園及び病院等がなく、住宅地群に近接していないこと。	住宅地群の近接状況	住宅地群からの近接度合い(距離)を評価	5: 500m圏内に住宅地群が認められない。 4: 500m圏内に住宅地群が認められる。 3: 300m圏内に住宅地群が認められる。 2: 100m圏内に住宅地群が認められる。 1: 候補地内に住宅地群が認められる。		300m以内に学校、幼稚園、保育園及び病院等がなく、の条件は整理済みであることから評価の対象から除外する。
②	自然環境を保全するため、自然公園地域、風致地区、環境保全地区等には設けないこと。	風致地区等への近接状況	風致地区等の指定地域への近接度合い(距離)を評価	3: 離れている。 2: 近接している。 1: 隣接している。		委員会での意見より考慮する。
③	生活環境を保全するため、人口の密集した地域や、住居専用地域(都市計画法)等には設けないこと。	—	—	—		15カ所の候補地区には該当しない条件のため、評価の対象から除外する。
④	防災面に配慮するため、災害の危険性がある地域は避けること。	活断層の近接状況	活断層からの距離を評価	3: 300m圏内に活断層が認められない。 2: 300m圏内に活断層が認められる。 1: 100m圏内に活断層が認められる。		地滑り防止区域及び急傾斜地崩落危険区域は、候補地には含まれていないことから評価対象から除外する。
⑤	ごみの収集・運搬効率がよく、焼却後の残渣の処理に便利な場所を選ぶこと。	収集・運搬効率	収集・運搬のトータルコストを評価	5: 収集運搬コストが現施設比1.0倍以下。 4: 収集運搬コストが現施設比1.0~1.1倍以下。 3: 収集運搬コストが現施設比1.1倍~1.2倍。 2: 収集運搬コストが現施設比1.2倍~1.4倍。 1: 収集運搬コストが現施設比1.4倍以上。		現環境清美工場との収集・運搬コストの相対比較により評価する。
⑥	将来にわたって、土地利用が決まっている地区には設けないこと。	土地利用状況	現況の土地利用を評価	3: 山林及び丘陵地 2: 農用地 1: 区域の一部に住宅地が点在している		調査検討した項目とは異なるが、重要な項目として考えられる現況の土地利用の状況の評価する。
⑦	搬入のための主な道路が整備出来ているか、整備出来ることが確実な場所であること。	道路整備状況	主要道からの距離を評価	3: 搬入道路の整備が必要ない。 2: 100m程度の搬入道路の整備が必要。 1: 300m程度の搬入道路の整備が必要。		15カ所の候補地区の面積が目標とする敷地面積の10haよりかなり広いことから比較検討しにくい項目です。
⑧	電気、ガス、水道等の供給設備の整備が困難でないこと。	都市基盤整備状況	インフラ整備コストを評価	5~1: 相対評価(コストが少ない方がポイントが高くなる)		施設の建設に伴うインフラ整備のコストを積算し評価する。
⑨	その他の条件	農振農用地	農振農用地の指定状況	農振農用地に指定されているかを評価	3: 指定されていない。 2: 地区内の一部が指定されている。 1: ほぼ全域が指定されている。	狭域候補地選定では、条件になかったが、考慮すべき項目。
		保安林	保安林の指定状況	保安林に指定されているかを評価	2: 指定されていない。 1: 地区内の一部が指定されている。	狭域候補地選定では、条件になかったが、考慮すべき項目。
2) 基本条件以外の考慮すべき項目		①	用地の買収に係るコスト	用地の買収に係るコストについて評価	3: 比較的に安い。 2: 平均的な買収価格。 1: 比較的に高い。	15地区について相対比較を行い、評価の基準を決定。
		②	敷地造成に係るコスト	大規模造成及び擁壁の必要性を評価	3: 平坦地。 2: 緩やかな傾斜地。 1: 急傾斜地。	
		③	用地取得の難易度	候補地の管理主体を評価	3: 市有地。 2: 一部が市有地。 1: 民有地。	
土地の権利関係を評価	3: 権利者数が10名程度。 2: 権利者数は比較的少ない。 1: 権利者数が多い。			一般的には、権利者数が多い方が、用地買収の交渉事項が複雑になるため、用地取得が困難となる。		